

私は冬に「コタツ」の上で花壇作りを楽しんでいる。コタツの上で花を育てるのではなく、通信販売のカタログを並べて、「この花の種を蒔いて、この宿根草はここに植えて」とカタログを眺めながら、想像の花壇作りである。

会社によってはカタログは無料で入手できる。費用もさほどかからないうえに失敗もない。育て方から、最新品種、用土、資材、何でも揃う。一番の魅力は全ての種類の写真があることだ。インターネットと違いページをめくるたびに、どんどんイメージだけが膨らんでいく。私の「コタツ園芸」の必需品である。

私と「通販カタログ」との出会いは小学校1年生のことである。祖父の部屋には、花・野菜のタネの入った袋とともに、通販カタログが本棚に並んでいた。タネの袋やカタログを見ているだけで楽しかった。

ある日のこと、茶色の封筒の中に両端は細く、真ん中が膨らんだイモのようなものを見つけた。祖父はそのイモを植木鉢に植え、大事に育てた。夏に赤・黄・白の丸い花が咲いた。その名前を知ったのは、祖父の部屋にあるカタログから同じ花を見つけ「ダリア」と初めて知った。

祖父が亡くなって30年以上経つが、私に残してくれたものは大きく、たくさんあった。

5年前に「大阪府立 花の文化園」で5メートル近くに伸びた皇帝ダリア (Dahlia imperialis) の花を見た時、圧倒された。そして自分も育てて咲かせてみたいと、胸の高鳴りを覚えた。

翌年の春にホームセンターで苗を購入し、2株を実家の畑に植え付けた。草丈30センチ程度で細いものだった。この苗が5メートル近くになるのか半信半疑だった。

夏が終わり季節が秋に移るころ、一気に伸び出した。近所の人は「この野菜はどうやって食べるのか」と不思議そうに聞いてくる人もいた。11月の過ぎたころ、ついに蕾が出てきた。霜に当たると枯れると聞いていたので、とても心配だった。

そして、ついにその時を迎えた。薄いピンクの花が次々に咲いてくれた。満開になった頃、母は切り花にして家の中で飾り楽しんだ。近所の話題にもなった。

しかし、1週間後初霜に当たり、緑色の葉が一晩で真っ黒になってしまった。苗を植え付けて6カ月、花の時間は短かったが、手ごたえはあった。その後毎年、1株ずつを植えて今年5年目になる。

写真は5年間に植え付けたままの株である。株元は直径15センチ程になり、竹のように固くなっている。(冬は株元を毛布で覆いをして冬越しをしている)

近所でも皇帝ダリアを育てる人が出てきてとても嬉しい。

祖父が好んで育てていたダリアは(ポンポン咲き)だった。仏壇と墓前に皇帝ダリアを供えたが、祖父はどんな思いで見ているだろうか。このダリアを……



植え付け初めての1番花



満開の頃



4年目の株元



切り花に



5年目(今年)の開花



祖父が育てていたポンポン咲きのダリア